

## 行きたい国と持って行きたいものを伝えよう

Key words 移民、共感的理解、持ち物 / 携行品

## 1 活用する主な展示および資料

- 展示「移民の七つ道具」コーナーのトランク
- 展示「わたしは何を持っていったでしょう」クイズ
- 紙芝居や「移民カルタ」



## 2 教科・領域との関連性および総時間数

- 外国語科、総合的な学習の時間
- 全4時間（事前2時間、見学1時間、事後1時間）



## 3 目標

- 移民はどのような国に何を持って行ったかについて、当時の移民の気持ちや考えを理解するための材料を集め、まとめることができる。【知識・技能】
- 「自分がもし移民として海を渡るなら」という状況に応じて、学習した言語材料を用いて、行きたい国とその理由、その国でできることなどから自分の気持ちや考えを伝えている。【思考・判断・表現】
- 当時の移民の気持ちや考えを寛容な態度で受容し、行きたい国とその理由などから共感して当事者の思いを尊重しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

## 4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本単元では、これから移住しようとしている国とその理由を I want to go to …、や I want to see [visit/eat/drink/buy] … の基本的な表現として活用したり、既習の言語材料 (can) を活用しながら、その国のことについて紹介したりする。考えを表出する力を伸ばすことができる単元である。

多くの日本人が移民としてさまざまな国へ行くことを決意した際、現地での生活を考えたときに「持っていかねばならない」と考えたものがあれば、日本を離れるからこそ「これだけは持っていきたい」と考えたものもあるだろう。具体的には、家族写真やカメラ、辞書、茶道用具などがあり、これらからは、当事者の「移民として」や「移住すること」への感情を読み取ることができる。移民として海を渡った先を確認し、現地での生活や労働などの状況を読み取ることを通して、移住することの実情を捉えることができるようにしたい。また、自らの意思で移住した親世代や大人だけではなく、親と一緒に行くほかなかった子どもたちに寄り添った共感的理解もすることで寛容な態度や尊重する心情をより育めるようにしたい。多様な立場に立ち、海を渡ることへの希望や意志、不安、恐怖などの感情があることも併せて理解する必要がある。事後学習では話すこと [発表] におけるパフォーマンス課題を設定する。支援として活動例を提示する際や学習に見通しをもたせるために、後述の授業づくりのための参考資料にある宮沢氏の語りを参照されたい。

## 5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国の単語や行きたい国について伝える表現について理解し、自分の行きたい国とその理由を伝える技能を身につける。【外国語科】</li> <li>2. 紙芝居や「移民カルタ」を用いて、日本人移民の歴史や生活などについて学習する。【総合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>●私の知らない国にも行っている。</li> <li>●どうしてこれらの国だったんだろう。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移民への理解については、日本語を用いて行うため、外国語科以外の教科で実施する。</li> <li>●必要な言語材料を音声で十分慣れ親しめるようにする。</li> <li>●自分の意思ではなく一緒に行くほかなかった視点からも移民を理解する。</li> </ul>
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 展示（トランクやクイズ）を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●こんなものまで持って行ったのか。</li> <li>●笑顔の人もいれば、不安そうな人もいる。</li> </ul> </li> <li>2. 一人ずつ名前や携行品などを確認し、語彙や表現を用いてその人の気持ちを日本語で考えたり、外国語を用いて表現したりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●自分だったら何を持っていくだろうか。</li> </ul> </li> <li>3. 移住先や携行品などの情報をまとめる。 【携行品の例】家族の写真、カメラ、辞書、茶道用具、習字道具、算盤、化粧品、将棋盤など</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●見学するコーナーを予め絞り、本単元に必要な情報を確実に取れるよう支援するが、見学時間を調整することができるのであれば、この限りではなく、資料館全体から移民を理解できるようにする。</li> <li>●携行品に着目させる一方、文書記録や写真などからも当時の人々の海を渡る思いや気持ちを読み取ることができるよう支援する。</li> </ul>
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国や携行品の語彙を確認する。 【国名】Argentina/Brazil/Cuba/Peru など 【携行品】family photo/dictionary/camera など</li> <li>2. 言語活動の目的や場面、状況を設定し、それに応じた発表を考え、実践する。 (例) その当時に移民として海を渡ることになりました。トランクには、一つだけものを入れるスペースが残っています。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ALT や翻訳機能を有効に活用し、外国語を通じた理解ができるように支援する。</li> <li>●理由 (want to do) とその国の情報 (can を用いて表現できるもの) について伝えることができるように支援する。</li> </ul>

## 6 学習後の姿

事前学習で学習した日本人移民の歴史や生活などへの理解や外国語科で学習した語彙や表現に加え、資料館見学を通して、海を渡ったさまざまな理由や背景があることを理解させたい。その他、調べた知識を活用し、当時の移民の立場で行き先を選び、そこに持っていく携行品について、簡単な理由とともに表現する。事後学習でパフォーマンス課題に取り組み、置かれた状況や立場に応じた当時の移民の人々の気持ちを考えさせたい。携行品に着目することで当事者のアイデンティティについて考えることにもつながる。「過去の出来事」としてではなく、共感的な理解や当事者の思いを尊重する態度を育みたい。

## 7 授業づくりのための参考資料

- JICA横浜 海外移住資料館(2006)『海外移住資料館だより』No. 6 (巻頭インタビュー 宮沢和史氏「移住者のスーツケース…僕ならギターを持っていく」)